

キラキラ☆たまご

2021年(令和3年)7月9日 No.9



食育☆はしのもちかた！



7月6日(火)に沼隈給食センターから、栄養士さんと調理師さんが来られて、給食のお話や正しい箸の持ち方を教わりました。みんなたのしく挑戦することができました。「感謝の気持ちが伝わるようにお皿がきれいになるように食べる」と言う子どももいました。

クロームブックについて



クロームブックを授業で活用することは少ないですが、子どもたちはいろいろな機能を覚え始めています。ログインは全員できるようになりました。おうちでしっかり教えていただきありがとうございます。

クロームブックの使用頻度は少なく、フル充電をしていただくと1週間以上もちますので、1年生は充電のために毎週持ち帰る必要はありません。

また、おうちのパソコンが使えるようであれば、そこからログインしたり、東書のタブレットドリルにログインすることもできます。

学校からは「持って帰りたい人は持って帰りましょう」と伝えていますが、各ご家庭や子どもの状況を考えて、持ち帰りについておうちでお話してあげてください。

自分のパソコンを1年生から自分のパソコンを持っているなんて...担任にとっては夢のような話です。

なぜ認知機能をたかめるのか

前回、認知機能を高めましようとして紹介しましたが、もう少し詳しくお伝えします。各トレーニングの内容は、「覚える」「数える」「写す」「見つける」です。それぞれ以下に示す力を育みます。

- 「覚える」: 集中力や短期記憶の力を養います。
- 「数える」: 数量感や集中力, 短期記憶の力を養います。
- 「写す」: 視空間認知力や一定の条件で分類する力を養います。
- 「見つける」: 視覚情報を整理する力を養います。

例えば、「短期記憶」は、自分が考えたことを発表するときや聞いていたことを伝える、数を数えることや計算をするときも、前の数や条件などを覚えておこないます。「視空間認知力」は、文字をお手本通りに書き写したり黒板の字を写したり、どの辺りがどのようになっているか、細やかに見る力(視覚情報を整理する力)が必要になります。また、それらの力が持続するような集中力が無ければ、力があっても気持ちがあちこちに向き一つのことをやり切ることができません。

トレーニングをして見えてきたもの

まだ、ほんの数回しかしていませんが、分かってきたことをご紹介します。

それは、今まで子どもたちは認知機能をあまり使うことなく生活してきたのではないかということです。つまり、認知機能を使うことの経験不足であるということです。

今の生活様式が便利になり、そのことが子どもの認知機能を奪っているといってもいいかも...と思っています。

不便?だった時代は、もっと子どもたちは家庭の中でお手伝いなど、家族の一員として積極的に役割を担っていたと思います。例えば、おつかいやちょっとした掃除・片付けなど...このような経験はきっと認知の力を知らないうちに鍛えていたように思います。

だからといって、「おつかいをしてください」「そうじをさせてください」ということではありません。今の生活環境は非常に認知機能を育みにくいことを知っていただき、その中で各ご家庭でできることを意識して取り組んで頂ければと考えています。例えば、毎日のスキップの中に指を動かす遊びを入れる、一緒にご飯を作る(お米をといたり、野菜を洗ったり)などです。そして、子どもがしたことに対して褒めたり認めたりしてあげてください。認知機能は短時間で急激に発達しません。毎日少し意識しながらコツコツ取り組むことが大切だと思います。子どもにとって「わかる・できる」ということは、色々なことに対する意欲や自信につながります。

期末テストのお知らせ

7月20日(火)2校時:国語, 3校時:算数

内容 国語(促音, 拗音, 長音, 助詞「は, を, へ」)
算数(あわせていくつ ふえるといくつ, のこりはいくつ ちがいはいくつ, かずをせいらしよう)